

【にんげん部門・佳作賞】

人を好きになることとは

稚内大谷高等学校 3年 平松 銀汰

人を好きになるというのは、とても不思議で、でもとても大切なことだと私は思います。誰かと話している時に自然と笑顔になれたり、その人の何気ない言葉に元気をもらえたりする。そんな瞬間を通して私たちは少しずつこの人が好きだと感じるのではないでしょか。

好きになる気持ちは、相手のいいところを見つけることで生まれることが多いですが、本当に人を好きになるというのは、いいところだけを見ることではなく、相手の弱さや欠点も含めて受け止めることだと思います。例えば、落ち込んでいる姿や失敗してしまった時の様子を見ても、それでも変わらずに、その人を大切に思える。そう感じたとき初めて本当の好きが生まれるかもしれません。

また、人を好きになると自分自身の気持ちや行動にも変化が起こります。相手が悲しんでいれば自分も悲しくなるし、嬉しそうにしていれば自然と嬉しくなる。相手を思いやることで、自分のわがままに気づいたり、もっと優しくなりたいと思ったりすることもあります。そうやって自分自身も成長していくのが、人を好きになることのすばらしさだと思います。

人との関係は、いつも順調にいくとは限りません。気持ちが伝わらなかつたり、すれ違つたりすることもあります。それでもその人のことを思い続けたり、どうしたらもっと仲良くなるかを考えたりすることが、大切な心の成長だと思います。

人を好きになることとは、簡単なようでとても深いものです。ただ楽しいとかドキドキするとかだけでなく、その人の「幸せ」を願う気持ちが自分自身にあるとき、これこそが本当に人を好きになったと言えるのではないでしょか。これが私の考える人を好きになることだと思いました。